

エゾマツ



アカエゾマツの純林

No. 35

1996. 1. 20

北海道ボランティアレンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 新春雑感 会長 大友 健 (1)
2. 雪の恩恵 (2)
3. 会員の声 (3)
4. 言葉の解説 (ネズミ) (7)
5. 12月の観察会の様子 浅野 正嗣 (10)
6. 野幌自然観察会に参加して 池田 啓介 (13)
7. 自然観察あれこれ 須田 節 (14)
8. 節供雑感 菊池 秀樹 (15)
9. 「アドニス」の物語 川端 功治 (17)
10. 本の紹介 (19)
11. 観察会研修会情報 (20)
12. 編集後記 (23)

新春雑感

会長 大友 健

1996年を迎え、会員の皆様には希望にあふれる、年頭の夢を描きもたれていることと、お喜び申し上げます。

昨年度におきましては、皆様それぞれにテーマをもたれ、自己研さんの日々を、そして観察会にあっては、それなりのカリキュラムに従い、見識を広めたいなる感動を重ね、参加の方々に生物共存の自然原則の理解をいただくなど、満足の1年であったことと思います。

近年は、地球環境規模での自然保護という、問題点のとらえ方の必要がいろいろと教えられ、学ぶ、理解するという機会が多く、人々もそれなりに感心度、理解度、から要求度が高まり、それらはレベル的にも、より高度化の時代と言っても過言ではないと思います。この時代の流れに即応でき得るために、私たちレンジャーは対象をある時は、マクロからミクロにとらえ、また逆にミクロよりマクロにとらえながら、ストーリーとして解説活動をするという、必要性があるのではないだろうか。

自然界における大気汚染、河川汚濁、水源と森の関連からも、数多くのテーマが設定され、研究発表、フォーラムなどが開催される機会が多く、参加する度に、考えよう、眺めよう、想像しようという意欲が、力となり、行動に移る結果となり、それなりの効果が多面的に表れ、結構なことと思われる。

21世紀もあと5年後の今を、行政も、民間レベルも、環境の維持、改善の努力を重ね、私共も合言葉として「この自然を大切に、21世紀を生きる子供達に、引き継ぐために」と掲げながら、当協議会も設立10周年を迎えようとしております。協議会会員としての基本的な活動要件を堅持することは当然として、時の流れに対応できる柔軟な意識、観点などに、創造と、工夫を自分なりに取り入れ、活動の成果をより高めて行くことが大切ではないだろうか。

雪の恩恵

年が開けて早々、札幌と喜茂別の境である中山峠より、喜茂別岳にツアースキーに行ってきました。毎日降る雪によって、エゾマツ・トドマツの枝が重そうに垂れ下がっているのが印象的でした。

昨年暮れの札幌地方は大雪に見舞われ、1 m 5 6 cmという12月としては記録的な積雪となりました。年が開けても、うんざりする降雪で毎日雪かきに追われています。

確かに、交通機関や日々の生活に支障が起きてくるのは事実であり除雪に費やされる労力や費用は膨大ですので雪はきらわれ物です。

しかし、雪は一方で、四月以降融雪水となり、川や平野をうるおし、私たちの生活はそのことによる恩恵を受けていることは承知の通りです。ダム貯水量を心配せず、水道水を使うことができるのも雪からの贈物と考えるべきなのでしょう。

自然のサイクルの中で営まれている私たちの生活です。雪に対しプラス思考で乗り切る事も、降雪地に住む知恵として必要なのかも知れません。

10月以降の活動

- 9月18日(月) ・役員会 於：かでの2・7
- 9月25日(月) ・記念事業実施委員会 於：かでの2・7
- 10月22日(日) ・森林公園事務所主催 秋の森の観察会 協力参加
(野幌森林公園大沢口コース)
- 11月19日(日) ・野幌の自然観察会 野幌森林公園
(11月12日 下見)
- 11月28日(火) ・記念事業実施委員会 於：かでの2・7
- 12月7日(木) ・森林公園事務所主催 12月の森の観察会 協力参加
- 1月11日(木) ・森林公園事務所主催 1月の森の観察会 協力参加
- 1月19日(金) ・役員会 於：かでの2・7

会員の

声

函館市 長岡 範子

全道のボラレンの皆さん、あけましておめでとうございます。冬の函館からコクガンのウォッチングをご案内いたします。

コクガンを見にいくときは、まず前の夜テレビの天気予報を見ます。明日晴れであれば○です。次に干潮の時間が日中であれば◎です。その時間近くに 戸井から上磯までの海岸線のポイントを見てまわります。そして、海からの風を防ぐ暖かい服装で出かけます。

この辺の海にはマガモがいたりして、山育ちの私は「キャッホウ！珍鳥」と楽しんでます。

札幌市厚別区 小 淵 修子

「木の間見ゆ 赤き粒の実 アズキナシ」 12月7日(木)「森の観察会」は気候の推移を知る節気「大雪」に当たる日でした。暦の上では冬將軍の到来が感じられる頃ですが、この日は小春日和の暖かい観察日和となりました。

冬立木の中でアズキナシやヤドリギのひときわ赤い実を目をひきつけられました。

アズキナシは開拓記念館の横手に目の高さで花・実が手に触れて観られます。「小枝は紫黒色で白色の皮目が点在するのでハカリノメ(秤の目)の一名がある」「果実は楕円形で紅色、小数の皮目が点在する」「樹皮は染料として用いる」とのこと。「カワシロナナカマドはナナカマドとアズキナシの雑種」とか。白い花、赤い実と愛らしい色々に興味をひく樹である。この木には必ず寄ってみるのですが、何故か枝が折れているのが気になります。



あずきなし (はかりめ)

札幌市豊平区 祐川 弘

役員を拝命後、就職し、会活動皆無の明け暮れ、皆様に顔向けできずに居ります。

8月に運良く、常呂町主催の自然観察指導員講習会に参加、力量不足ながら研鑽でき、また、10月には主催行事「滝野の自然に親しむ集い」に参加し、私なりに収穫がありました。

何処に移動しましてもボラレンの息掛りの方にお会いでき、意を強くし、改めてボラレンの歴史、足跡、根強い発展を認識できました。

新年こそは会の皆様に再会し、微力ながら何かの役に立てればと念じつつ。

札幌市西区 武田 洋子

年末にダイヤモンドヘッド(232m)に登る機会がありました。登山口から25分で山頂。途中トンネルがあり、懐中電灯は必需品でした。

植物もあまりなくオレンジ色のヒトデの様な花をつけたサボテンが印象的でした。狭い山頂から見るワイキキビーチ、屹立しているホテル群そして只々広い太平洋。低山とは思えない見ごたえのある景観でした。山納めをハワイでする事が出来た幸せをかみしめ今年の山行予定をたてるべく私は今、ガイドブックをめくっています。

江別市 須賀 盛典

阪神大震災、地下鉄サリン事件で幕が明けた昨年でしたが、ボランティア・レンジャーの一員としての観察会のお手伝いは、12月7日の北海道野幌森林公園主催の「森の観察会」で一応終える事ができました。(参加者 一般21名 ボラレン8名)

当日は、師走に入ったこの時期としては、珍しく暖かな晴天に恵まれた絶好の観察会でした。

この日のテーマである冬芽・樹形・落ち葉などについて、参加者の皆さんと楽しい半日を過ごしました。

帯広市 小野寺 実

十勝は乱開発の歴史の中で、自然と共存する意識が低く、環境保全よりも経済優先の考えが先行しがちな地域である。

今日河岸の野鳥や国立公園の動植物が危機に瀕しているのもその一例である。地域の人々の環境意識の向上のために息の長い啓蒙活動が求められている。

行政主催や自然団体の単発的な自然観察会が開かれてはいるが、地域に住むボラレンの仲間の組織づくりと、継続的な観察会等、自らの積極的な活動が期待されており地道な努力を進めたい。

札幌市南区 松野 誠也

家庭の事情から心ならずもアウトドア活動は御無沙汰気味です。そんな中自然にふれたい気持ちを満たしてくれるのがテレビのネイチャー番組です。「植物ふしぎ旅」「ふるさと自然発見」「花の百名山」などです。

未曾有の就職難といわれているためか、各種資格を取得しようとする人が増えており、ボランティア自然観察案内人も資格と思っている人がいる様です。国が96年から始めようとしている「自然解説指導員資格認定制度」とあわせ考えさせられます。

植物を取り巻く環境の変化

札幌市手稲区 加藤 清春

皆さん御存じの通り、最近は自然の汚染が多くなり、私たちの豊かな生活に必要な植物たちは、いま深刻な状況におかれています。それは地球規模で進んでいる環境の悪化が原因です。

地球を取り巻く大気は、地球上の生命を守ってくれるだいじなものです。大気圏外には多くの宇宙線や紫外線など生命にとって悪影響のあるものが渦巻いていますが、大気がそれらをさえぎる役割を果たしています。私達レンジャーは、この事を勉強する必要があると思います。

公的資金の濫用に思う

美唄市 中田 茂男

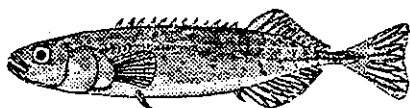
平成7年12月10日、日本経済新聞のコラム欄によると、中米地峡コスタリカでは、89年非武装中立を宣言、軍隊を廃止し、浮いたお金を教育と国民の健康に振り向けたとのこと。

ここで注目するのは、それに加えて、国土の25%を自然保護区に指定、さらに、環境スワップによる森林保全など先端的試みに挑戦していると言う。

わが日本国でも、いま直ちに自衛隊を廃止しなさいとは言わないが、スジの通らないものへの公的資金の導入ができる程の余裕があるのなら、ここは一つ、国の林野行政に資金導入の手を差し延べてもらえないだろうか。

なにがなんでも独立採算制などときれい言をのたまっているのは、我が国の森や林は間もなく哀れな姿になってしまうのは必定。

豊かな緑におおわれた国土こそ、国としての風格と思うのだが。



新会員紹介と名簿確認

本会に入会された方を紹介します

藤井 安澄さんです。倶知安町に住んでおられます。今後の活躍を期待します。

昨年12月 会員名簿をお送りしました。もし、名簿に誤りがありましたら、連絡ください。

連絡先 札幌市南区藤野4条7丁目277-74

総務部長 佐藤 健一 (TEL 011-592-4222)

ことば の 解説

ネズミ（鼠）

今年の干支は子（鼠）です。干支とは十干と十二支を組み合わせ、60の組み合わせを作り、年・月・時刻・方位を表しています。普通十干を省略し十二支という言い方が多いようです。

さて、今年の干支、子（ネズミ）についてまとめました。

ネズミの類は、リスやテンジクネズミなどと共に、げっ歯類で上下のあごに各一對の大きな門歯のあるのが特徴で、しかもこの歯は一生のび続けます。そのかわり、大歯や前臼歯はなくなっていて、口の奥に3対の大臼歯があるだけです。この臼歯もハタネズミの類では異常に発達していて、一生のび続けるようになっています。

もう一つネズミの特徴は、その長い尾にごくまばらにしか毛がはえていないで、大部分が表皮性の角質でできた鱗におおわれていることです。これは、哺乳類としてはひじょうに原始的な特徴といわれています。

もともとげっ歯類（目を構成）暁新世のころ（7000万～5500万年前）にアメリカ大陸にあらわれ、パラミス（*Paramys*）と称するリスに似たものから出発してやがてリスの類（*Sciuromorpha*）、ネズミの類（*Myomorpha*）ヤマアラシの類（*Hystricomorpha*）の3群（亜目）に分かれ、始新世に南アメリカげっ歯類と称される主としてヤマアラシ亜目に属するものを残して、ほとんどが旧大陸に渡っていきました。

なかでもネズミ亜属はアジアで大いに栄えキヌゲネズミ（*Cricetidae*）やネズミ（*Muridae*）などの諸科に分かれて、再びまた世界の各地に向かってひろがっていき、その土地土地でいろいろの種類に分化していきました。

1941年、大英博物館から出された エラーマン (Ellerman) の目録によると、ネズミ科だけで204属 1765種、亜種まで加えると実に3589種が知られています。獣の種類は化石を除いて932属 3550種といわれていますから、その半分がネズミであるとも言えます。まして、その固体数にいたっては、人類の人口数に比較にならぬほど膨大な数になることが推測されます。

一般に人家に住むものを〔家ネズミ〕といい、これは次の3種があります

ドブネズミ……………世界中に最も広く分布している種類であり、医学や動物実験に用いるダイコクネズミはその白化したものです。

クマネズミ……………ドブネズミよりやや小さく、耳が大きく尾が長いのが特徴。

ハツカネズミ……………小形で愛がん用にも飼われてきました。その改良されたものが、ナンキンネズミ (マウス) で、現在、医学や生物学の実験に盛んに利用されています。

一方、野外に住むネズミを総称して〔野ネズミ〕といいます。これらはふだん、平地や草原や川岸などに住み、畑の野菜や穀物を荒らし、さらに、山林まで害をおよぼし、樹木の皮や根を食い荒らして枯死させます。

北海道では、背の赤茶けたエゾヤチネズミが盛んにカラマツ林を食害します。

日本最小のカヤネズミは体長わずか5~6cm、尾が長くこれでカヤなどの茎に身を託してじょうずに鳥のような球巣を作ります。

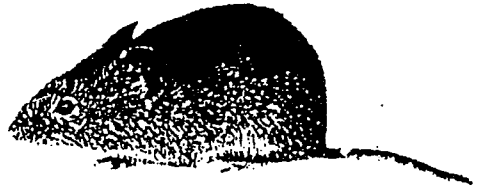
(参考：世界大百科事典 平凡社)

ネ ズ ミ 科	ハクネズミ亜科	ヤチネズミ属	エゾヤチネズミ
			ミカドネズミ
			ムクゲネズミ
	ネズミ亜科	アカネズミ属	エゾアカネズミ
			カラフトアカネズミ
			ヒメネズミ
	ドブネズミ属	ドブネズミ	
		クマネズミ	
	ハツカネズミ属	ハツカネズミ	

森林に住みついている野ねずみ達



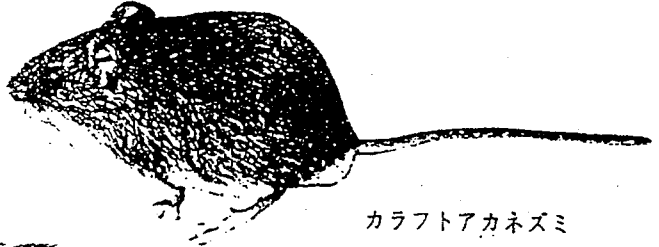
エゾヤチネズミ



ミカドネズミ



ヒメネズミ



カラフトアカネズミ



エゾアカネズミ

12月の観察会の様子

江差町 浅野 正嗣

12月3日、厚沢部町のレクの森で観察会を行いました。朝9時に集合して午後1時30分に解散しましたが、この森は夏の大雨で樹木などに大きな被害を受けてしまいました。

以前に厚沢部町のレクの森には、ヒノキアスナロとトドマツが混在している場所があり、トドマツの旗色が悪いことをお話しましたが、今回はこの場所を中心にみんなで4時間ほど観察しました。

レクの森には、いくつかの観察コースがあります。今回はBコースを使用しました。大きな古い人口林を通過して、見本林を過ぎるとBコースの始まりです。すぐにヒノキアスナロを主体とした天然林を観察することができます。



江差町松ノ岱公園 探鳥会

この場所の樹木はあまり被害を受けていませんでしたが、尾根近くや立木密度の低い場所では、所々に大きな被害が見られました。よく見るとヒノキアスナロの被害はほとんどありませんでしたが、トドマツの大木ばかり被害を受けているようです。

被害を受けた直径70cm位のトドマツを観察すると、根からひっくり返っているものより、幹の途中から折れているものが多いようです。折れ口を観察してみると、幹の芯のほうの材質がもろくなっていて、手で引っ張ると簡単に取れるものもありました。またカステラのように柔らかく変質しているものもありました。外見からではよく分かりませんが、折れ口の観察から幹内部の強度がなくなっており、台風のような強い風が吹かなくても、簡単に幹が折れてしまったことが分かりました。

今回の災害からまぬがれた大きなトドマツも、内部がカステラのように変質してい

ることが予想され、いずれ近い内に折れたり、枯れたりして、レクの森から無くなると思います。すこし寂しい気もしますが、自然の流れなのでしかたがありません。



厚沢部町 レクの森登山観察会

さて、コースをすこし離れた所に大きなヒノキアスナロと桂の木があります。どちらも、大人5人が手をつないでも一周できない太さがあります。

ヒノキアスナロの大木はヒバ祖父さんと呼ばれています。幹は途中で折れているのですが、幹から何

本かの枝がそれぞれ一本の木のように生きています。ヒバ祖父さんから30m位、沢よりに、桂の大木があります。これはとくに愛称はありませんが、ヒバ祖父さんと同じように、幹から何本かの枝が幹のように成長しています。

ヒノキアスナロは伏条更新、桂の木は、萌芽更新という子孫を残す手段を持っていて、どちらも生命力の強い樹木です。そのために、幹が折れても枯れることもなく、ほかの枝が幹になり生き続けることができるようです。

コースの終わりに小さな沼があります。沼の付近には、ハンノキとヤチダモの木がたくさんあります。冬の今の時期は水位が下がり、明確にはわかりませんが、ハンノキとヤチダモは住む場所を分けているようです。



今金町 カニカン岳登山観察会

水の漬かる場所はハンノキが多く、一段上がった場所にはヤ

チダモが多いようです。夏の水位の高い時期に観察するとよく分かります。

観察会の途中では、クマゲラの鳴き声も聞え、楽しく森を散歩することが出来たのではないかと思います。

次回の開催は、1月14日を予定しています。近くなりましたら詳しい場所や時間などをお知らせいたします。

近くに住む方で、興味がありましたら、参加してみてください。

7年度 檜山支庁自然保護係の開催行事

	時期	行事名	場所	テーマ	参加人数
観 察 会	5月	鳥探会	江差町	春の野鳥観察	26
	6月	大千軒登山観察会	上ノ国町	ブナ林と高山植物	61
	7月	ヤンカ山登山観察会	熊石町	ミズナラとブナ	15
	8月	狩場山登山観察会	北檜山町	高層湿原と高山植物	30
	9月	カニカン岳登山観察会	今金町	ブナ林と金山藪	33
	10月	丸山登山観察会	今金町	紅葉を楽しむ	20
	11月	笹山登山観察会	江差町	枯れ葉を踏んで	19
	12月	レクの森登山観察会	厚沢部町	ヒバとトドマツ	25
	1月	太鼓山登山観察会	厚沢部町	ラッセルを楽しんで	(予定)
	2月	夷王山歩くスキー	上ノ国町	雪山を自由に散歩	(予定)
	3月	竹森山登山観察会	乙部町	旅行目標保安林	(予定)
	そ の 他	5月	木工教室Ⅰ	支庁中庭	木に親しむ
5月		木工教室Ⅱ	水瀬小学校	木に親しむ	40
7月		野鳥絵画展	支庁ロビー	小学生の作品展示	50
10月		木工教室Ⅲ	江差産業祭	木に親しむ	200
11月		昼休みコンサート	支庁ロビー	手回しオルガン演奏会	44
合 計					843

檜山支庁自然保護係長をされている浅野正嗣氏は、檜山支庁管内で自然観察会等の計画実施の推進をされています。登山観察会という企画は、私たちボラレンの活動にも参考になることだと思います。

尚、文中の写真は、標題に関連したものではなく、今年度実施したいろいろな観察会の場面でのスナップ写真です。

「野幌自然観察の集い」に参加して

帯広市 池田 啓介

札幌での用事があるときでないとは参加できない観察会、よい勉強になりました。9月3日（日）、樹木や野草の花も実が変わろうとしている時、観察会としてはよいチャンスであった。自分の勉強はもちろん、多くのなかまと一緒に観察できることはめったにないからです。地元での観察会は回数も少なく、ボランティア・レンジャーとしての力をつけることも少なく、軌道にのらない。

私の参加した「野幌自然観察の集い」はよかったと思います。当日の参加者は、初めての人でも回数を重ねてきた人も、新鮮な感じもたれよかったです。

つぎに、ガイドされたボランティア・レンジャーの人たちの活動であるが、班編成からガイドまでとてもよく動いた。事前の調査、ポイントのおさえができていたので、私のような飛び入り者は、一緒に組まれた二人のガイドの方に助けられました。

チームワークの大切さ、適切に説明していたのが印象的であった。私のように行き当たりばったりでは問題点が多く迷惑をかけてしまった。

ガイドは事前調査、指導のポイント、観察のマナー、注意事項など観察会の準備を十分にしなければと、この観察会を通してよい体験となった。途中、夕立の判断は、参加者の健康管理を考えるとよい判断であったと思う。事前調査の資料も手持ちよい大きさ、内容もわかりやすく、初めて参加する人たちにも手頃な資料といえる。

今、多くの人たちに求められていることは、自然とどう付き合うかということが課題となってくる。口では自然保護がたいせつだ、自然環境を守らなければならないということを耳にするが、取り組む手立てとなると大変難しいことである。そのためにも観察会は、自ら体験し、自然のよさを身に感じるよいチャンスと言える。

自然のなりたちや環境を観察会を通して知ることが北海道ボランティア・レンジャー協議会の役割とも言える。札幌周辺はもとより、道内各地へも広げていければと思うのです。道展の移動展のように、道内の数ヶ所で移動観察会ができれば……と思います。

「野幌自然の集い」はそう言う気持ちを持たせてくれたよいチャンスでもあった。

自然観察あれこれ

札幌市 須田 節

10月22日(日)の野幌森林公園「森の観察会」に、ボランティア・レンジャーとして始めて参加しました。2回目の余裕なのでしょう、先週の下見に続いての観察は名前を覚えようとするだけの狭い意味での観察でなく、“動植物の知恵の不思議さ”が興味深い一日となりました。

北海道ボランティア・レンジャー協議会入会の直接のきっかけは、一般参加観察会での大失敗でした。図鑑だけでは解らないものが多く、レンジャーに一人で矢継早に細かに尋ねました。班の人達も当然詳しく知りたいのでは、とっていましたから。

観察会が終わって昼食をとっている時、「さっぱりおもしろくなかったわ。」と聞こえてきました。

全体のことを考えていなかった一人の質問によって偏った観察会になってしまったことに気付かされました。

人それぞれ、関心も満足の程度も違うことを忘れていたのでした。その経験から迷惑をかけずに自由に尋ねられる場を求めたのです。

自然と人との出会いのすばらしさを分かちあう力を、存分に充電していきたいものです。

どうぞ、よろしくお願いします。



節 供 雑 感

札幌市 菊池 秀樹

君がため春の野にいでて若菜つむ

わが衣手に雪は降りつつ

(あなたのために、春の野辺にいでて若菜を摘んでいる。その私の着物の袖に、しきりと雪は降っていることよ。)

皆さんご存じの「小倉百人一首」です。光孝天皇の作として第十五番目に登場してくる歌です。この歌に詠まれている「若菜つむ」の「若菜」は、普通「春の七種」として受けとめられております。

さて、ではこの七種を平安王朝の人々はどのようにして食していたのでしょうか。

当時はすでに、塩・醤(ひしを・現在の醤油にあたるもの)・酢などという調味料はあったようですが、生で食べたか、おひたしか、はたまた粥に入れたのかそこはよく分かりません。でも話題を豊にするために、ここでは粥、にしておきましょう。

この粥をさらに「七種粥」とするならば、それは「五節供」の一つである「人日」の料理ということにも話題は広がって行きます。「人日(じんじつ)」、初めてお聞きになる方もおられることと思います。

節供(節句)とはそもそも、季節の変わり目に供え物をささげ祝ったり、特別なその日に供える膳を用意して食べる習慣と言われております。その一例を紹介しますと次のようになっていたようです。

一月七日・人日(じんじつ・七草粥)

三月三日・上巳(じょうし・草餅)

五月五日・端午(たんご・粽)

七月七日・乞巧奠(きこうでん・索餅)

九月九日・重陽(ちょうよう・菊酒)

上の例には、季節と自然物と人とのかわりがよく読み取れるかと思えます。

話題を「七草粥」にもどしますが、現代でもこれを食べると一年間病気にもかからず、他の災いなどを払うことができると言い伝えられております。それが、ましてや遠い昔のこと。病や災いが現代よりはるかに死に直結していた時代です。古代の人々がこの粥一杯に託した願いは、暗くて厳しい冬を耐え、暖かい春の訪れを心待ちにしていた幸を願う粥の味だったと思われます。

尚、節供としての「人日（じんじつ）」ですが、中国から伝わった古い習慣で、正月の一日から六日までは獣畜を占い、七日には人を占ったものと言われております。

人日、即ち、その習慣が、「人の日」となったものと思われます。

しかし、それにしても、私には「春の七種」は、何とも言えぬ響きを持つ愛称に感じられてならないのです。それは「秋の七種」とは異なったものなのです。やはり、私自身が春を待つ浮き浮きした心を持っているからなのでしょう。

芹（セリ）・薺（ナズナ、ペンペン草）・御形（ゴギョウ、ハハコグサ）・繁縷（ハコベラ、ハコベ）・仏の座（タビラコ）・菘（スズナ、カブ）・清白（スズシロ、ダイコン）

これが春の七種なのですが、作者不詳の歌として

せり なずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草
というのがあり、さらに、初めに引用しました光孝天皇の歌をもじって、

うぬがため春の野に出るなずな売り

という川柳もあります。

（注：うぬがため＝自分の商売用に）

セリ…セリ科	ナズナ…アブラナ科	ハハコグサ…キク科
ハコベ…ナデシコ科	タビラコ…ムラサキ科	カブ…アブラナ科
ダイコン…アブラナ科		

「アドニス」の物語 (ギリシャ神話より)

— 福 寿 草 —

札幌市 川端 功治

中近東にキプロス島があって、アドニスと言う王子が住んでいました。美の女神アフロデイトは、この王子をこよなく愛していました。ところが、戦いの軍神アレスはこれを妬み狂暴な野猪に変身のうえ、王子を襲撃して殺害してしまいました。

これを悲しんだ女神は、ハラハラと涙を流しましたので、その涙が流れた所に花が咲きました。その花はアネモネと名付けられ、のちに聖書に掲載されて有名になりました。それはイエスキリストが、この花を指差し「ソロモンの栄華も、野の花の美しさに及ばず。」と言われたと伝えられています。

王子の体から流れ落ちた血と女神の流した涙と混じり合って、滴り落ちた所に美しい花が咲いたので、人々は王子の死を悲しんで、この花には王子の名前を付け「アドニスフラワー」と呼ぶことになったいきさつを取り入れて、現在の植物学の学名も、アドニス属と分類されています。この物語のためヨーロッパなどでは、悲しみの花として敬遠されているそうです。

日本では、和名を「福寿草」と呼び、おめでたい名花として、もてはやされているのは大違いです。ヨーロッパ等では赤い花の色なので、血の色を連想させる為ではないかと思われます。ところ変われば品変わるのたぐいでしょうか。ところでこの属は分類の困難な仲間とされていて、かの有名な牧野富太郎先生さえ、イチゲフクジュソウとエダウチフクジュソウとに分けるべきだとコメントを残してこの世を去りました。北海道では、環境学の権威、北大の伊藤浩司先生が「北海道の高山植物と山草」で、キタミフクジュソウとエゾエダウチフクジュソウに分けたいが、いまのところ後者のものは単にフクジュソウにしたいと述べているように、分類の厄介な植物なのです。

ところが最近北海道の自然と生物誌2号に、西川旭川教育大教授が日本のフクジュソウは次の3種類に分けられたことを伝えています。

1. *Adonis amurensis* Regel et Radde

キタミフクジュソウ。「イチゲフクジュソウ」一茎一花、萼片は花弁より長いほぼ等しい、染色体 $2n=16$ 。道東に分布

2. *Adonis Ramosa* Franch

フクジュソウ。一茎一花から多花。萼片は花弁とほぼ等しいか短い。染色体 $2n=32$ 。全道に分布

3. *Adonis multiflora* Nishikawa

ミチノクフクジュソウ。一茎多花。萼片は花弁より明らかに短い。染色体 $2n=16$ 。本州、四国。



平成6年5月14日付け北海道新聞に幻のフクジュソウとして話題になったミチノクフクジュソウは千歳の美美川付近に野生しているとの情報であった。しかしながら植物写真家梅沢氏によって調べられたが、ついに確認出来なかった。植物は自分の生息地を広げる時、染色体の数を増やす場合があると言う。16と32の染色体の差にどのような歴史が秘められているのであろうか。福寿草の字句が大好きである。アドニス王子の悲しい物語や、3種類の分類のめんどろさから逃れて、春の野や川べりに愛でたい花を尋ね歩きたい。

注記

◎ アネモネ

キンポウゲ科—ボタンイチゲ。白、赤、紫、藍等各色八重咲き菊咲きあり。

ギリシャ神話の一説に、娘アネモネが不倫の罰として花の神によって、一茎の花に閉じ込められた。その相手は風の神であったから、風の花とかアネモネと言われるようになった。別名—ハナイチゲ、ベニバナオキナグサ

◎ 学名の種少名の意味

amurensis (キタミフクジュソウ) アムール地方の意。外地の分布は樺太、東シベリア、中国、朝鮮。

ramosa (フクジュソウ) 枝を広げたの意。日本の固有種。

multiflora (ミチノクフクジュソウ) 花を沢山つけたの意。外地の分布は朝鮮。

本の紹介

BOOK

平田 剛士 著

北海道ワイルドライフ・レポート

平凡社 1995.6.19 発行

定価 2000円

昨年の秋、阿寒国立公園内の「雄阿寒岳」に登る機会がありました。帯広から足寄を経由して、阿寒湖畔に出たのですが、足寄から阿寒湖畔に向かう国道沿いの畑や牧草地柵のあちこちにシカよけの電気柵が設置されているのが目につきました。

雄阿寒岳登山口からの広葉樹林帯のあちこちの樹木の樹皮がみごとに剥がされいました。エゾシカによる食害の跡です。

本著、第一章「エゾシカの里で」の中で、エゾシカの被害を受ける樹木をつぎのよう

に述べています。
「……まず好物のオヒョウニレ、ハルニレ、エゾイタヤなどから食べ始め、それが少なくなると、ヤナギ、キハダといった木にも食指を伸ばし、さらにオンコ、トドマツなどの針葉樹へと移っていく。……」そして、食害を抑えるにはエゾシカの生息数のコントロールを行うことも必要であり、その理由として人間が数を調整してやらなければ生きていけない動物とも言っています。

第二章以下、キタキツネ、シマフクロウ、ヒグマ、マガン、イトウ、ゼニガタアザラシについて、さまざまな角度から人間との共存のアプローチを試みています。

野生動物の保護と共存について、著者は末尾でつぎのようにまとめています。

「野生動物たちがどんなかたちでいればよい状況とみなすか。それは少なくとも彼らが群れとして十分な健康をそこで維持してゆける状況である。……野生動物の生活圏と人の生活圏とが重なり合っているところでは、圧倒的に大きな影響力を持つ私たちの側が工夫して、せめてそんな最低ラインを保証すべきだ。」

観察会研修会 情報

1月以降のボランティア・レンジャー協議会主催の自然観察会

- ◎「滝野の森を歩く 自然観察会」 滝野すずらん丘陵公園
平成8年2月25日(日) 10:00~12:00 下見 2月18日(日)
集合場所 札幌市南区 滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場
- 【オホーツク支部主催】
- ◎「自然観察勉強会」 平成8年3月17日(日)
集合場所 北見市郊外(河川敷周辺)
(支部主催活動については、支部長 高橋義治 TEL 0157-61-8254 にお問い合わせ下さい)

1月以降のボランティア・レンジャー協議会が協力する自然観察会

- (野幌森林公園事務所主催)
- ◎「1月の森の観察会」 平成8年1月11日(木) 10:00~12:00 下見 1月9日
集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前
- ◎「冬の森の観察会」 平成8年3月3日(日) 9:30~14:00 下見 3月2日
集合場所・野幌森林公園大沢口

開拓記念館の行事 (問い合わせは TEL 011-898-2525)

- ◎ 講演会 「日本ヘクマが来た道」 講師 門崎 允昭(記念館普及課長)
平成8年1月21日(日) 13:30~ 開拓記念館講堂
- ◎ 観察会 「冬の森を歩く」-動物の生活痕- (森林公園事務所と共催)
平成8年2月18日(日) 10:00~15:00
*歩くスキーの用意が必要です。

【御案内】

滝野の森を歩く 自然観察会

公園内の疎林広場と炊事遠足広場周辺をスキーコースに沿って、樹木や雪の上に印された動物の生活痕の様々を、歩くスキーで観察します。

日 時 平成8年2月25日(日) 10:00~12:00

集合場所 札幌市南区 国営滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場

*2月18日(日)下見があります。このことについての

問い合わせは、TEL 011-875-6602 (事務局長 佐々木幸夫宅)

冬期開園中バス時刻表 (平成8年1月10日~平成8年3月31日)

中央バス滝野線(南102) 《毎日運行》
 (月寒営業所 TEL(011)851-2106) 札幌ターミナルより60分 大人530円・小人270円
 行き 地下鉄真駒内駅より20分 大人360円・小人180円

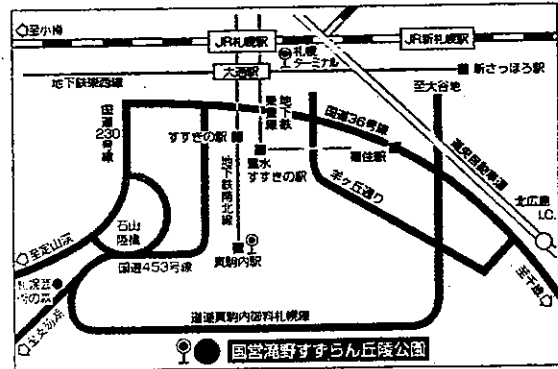
札幌ターミナル(発)	8:27	9:45	11:45	13:30	
地下鉄真駒内駅(発)	8:54	10:12	12:12	13:57	14:35
滝野すずらん丘陵公園(着)	9:25	10:43	12:43	14:28	15:06

帰り

滝野すずらん丘陵公園(発)	9:40	11:00	13:01	14:40	15:15
地下鉄真駒内駅(着)	10:07	11:27	13:28	15:07	15:42
札幌ターミナル(着)	10:38	11:58	13:59		

市営バス滝野線(南92) 《日・祝日のみ運行》
 (藻岩営業所 TEL(011)581-0161) 地下鉄真駒内駅より20分 (大人360円・小人180円)

地下鉄真駒内駅(発)	9:05	10:17	13:15	滝野すずらん丘陵公園(発)	11:07	14:00	16:00
滝野すずらん丘陵公園(着)	9:25	10:36	13:34	地下鉄真駒内駅(着)	11:26	14:19	16:19



◎歩くスキーの貸し出し

公園内の「ロッジゆきざさ」で歩くスキーの貸し出しをしています。事前に予約しておく、スキー・靴の確保ができます。

料 金 大人 520円 小人 310円

予約、問い合わせ TEL 591-4433

平成7年度「ボランティア・レンジャー実践セミナー」のお知らせ

平成7年度の、標記研修セミナーが、北海道石狩支庁の主催で行われます。このセミナーはボランティア・レンジャー（自然解説員）育成研修会を修了した者を対象としています。

ねらいは、各種専門知識や実践的知識及び技術を習得すること、ボランティア・レンジャーとしての積極的な活動のありかたと連帯強化を図ることにあります。

石狩支庁、空知支庁、胆振支庁のボランティア・レンジャー育成研修会修了者を対象としていますが、各地からの積極的な参加をしていただきたく、お知らせします。

開催日時 ・平成8年3月16日（土） 9：30～

開催場所 ・北海道開拓記念館、野幌森林公園

（札幌市厚別区厚別町小野幌53-2）

募集について

- ・30名（希望者多数の場合は抽選）
- ・申し込みは、電話により石狩支庁経済部林務課自然保護係
（TEL 011-231-4111 内線 34-360、361）
- ・受付期間は、2月1日から2月末日

研修内容と日程

時 間	内 容	場 所
9:30 ~10:00	受付	開拓記念館
10:00 ~10:10	開講式	〃
10:10 ~11:30	講義 一冬の自然を伝えるには一	〃
11:30 ~11:40	質疑	〃
11:40 ~13:00	昼会及び事前打合せ	〃
13:00 ~14:40	野外実習（フィールドサイン、雪遊び等）	野幌森林公園
14:40 ~15:00	講評	開拓記念館
15:00 ~15:05	閉講式	〃
15:05 ~	開拓記念館観覧	

編 集 後 記

平成8年度の新しい年を迎えると、心も体も清められたような気分になり、希望や抱負を誰もが持つものですが、すぐに惰性の毎日に戻ってしまうのは俗人の悲しさでしょうか。

北海道ボランティア・レンジャー協議会も、今年十周年を迎えようとしていますし、この節目の年に記念事業を進めるべく、実施に向けて作業が進行中です。この事業と会員一人ひとりの協力が、本会のさらなる発展となることは言うまでもありません。広報「エゾマツ」も会員の皆様の連携の一助になるよう努力していきたいと考えています。

本年もどうぞよろしく願いたします。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」35号 1996.1.15 発行

発行責任者 大友 健

(表紙題字 岡田 元北海道生活環境部長)